

おokayama いっぽん+

okayama ippon plus

2016年10月

VOL.1

発行：おokayama いっぽん



もう一度、共闘と勝利のために。

【おokayama いっぽん】

■ 岡山市中区東山 2-14-10 有限会社 D-mediaCreations 内 ■ TEL : 086-270-5305 / FAX : 086-270-5306

■ web site=<http://okayama1pon.net/> ■ e-mail=links@okayama1pon.net

— 創刊にあたって —

新時代の民主主義をつくろう



おかやまいっぽん
共同代表 宮本龍門

平素より「おかやまいっぽん」へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

わたしたちは、安倍政権に対抗する岡山県民の“チカラをひとつに”したいと考えています。

“ひとつに”と言っても、もちろん個人の意見はそれぞれ違って当然です。

話し合いを通じて、互いの違いを尊重しながら、しかし一致点において“チカラ”を合わせていく、という新時代の民主主義を創造していきたいと考えています。

当機関紙がそれに寄与できるよう期待しております。

おかやまいっぽんの一步。
さらに前へ

9月27日、林道倫精神科神経科病院ひまわりホールにて、「おかやまいっぽんの一步。さらに前へ。」を開催し、84名の方にお越しいただきました。



おかやまいっぽんから参院選総括報告をするとともに、他選挙区の様子も知りたいということで、野党統一候補が市民のチカラで勝利した三重県より、市民連合みえの岡歩美さんをゲストにお招きし、おかやまいっぽんがやったことと三重の様子を対比しながら参加者みんなで意見交換。あらためて、わたしたちおかやまいっぽんに足りなかったものが見えてきました。



市民連合みえ 岡歩美さん

候補者が若い人から話を聞く会を緊急開催して同じボリュームの記事で掲載してもらおう。そのことで有権者が受ける候補者の印象を変化させました。

そして、そもそもそのような取り組みが可能となった理由として、選対の下請け的な立場で動くのではなく、選対に密着し、会議にも出席し、さらにはしっかりと企画提案を行うという対等な立場を確保していたということです。この部分については、岡山では明らかに欠けていました。

1. 熱意の具体化

わたしたちおかやまいっぽんも当然熱意を持って闘いました。しかし、三重の様子を聞き、その熱意を具体化する工夫が足りなかったと感じました。

三重では、相手候補の動きを見て、それに対抗できる冷静かつ有効な対応を実現していました。たとえば安倍首相が相手候補の応援に来ると知れば、翌朝の新聞紙面を意識し、

2. 情報共有のシステム

おかやまいっぽんでは、野党共闘を支えるみんなと選挙戦の情報を素早く正確に共有するために、主にFacebookを利用し、投稿の前に民主的な合議を挟みながらもスピード感をもって情報掲載を行っていました。しかし、目



まぐるしく変化する選挙情報を正しくアップするためには、その情報処理、意思決定の対応に追われることが増え(後手後手になってしまい)、直前告知が常態化してしまいました。

反省として、ここの一番で盛り上げるべき街宣やイベントを事前に集約し、情報拡散に力を入れるものをある程度限定することが必要でした。また、Facebookだけでなく、TwitterやLINEをもっと有効利用することも検討していきたいと考えています。



なお、問題はそれらの情報を管理発信するマンパワーが不足していたことです。常に選対の近くに居て、最新の情報を素早く手に入れ発信する機能なくしては、情報拡散につながりません。今後の課題です。

3. 本音・妥協しない・市民のプライドを持つ

何より反省させられた部分が、わたしたち市民が候補者や政党とコミュニケーションを取っていく上でのスタンスとして、三重では「本音」、「妥協しない」、「市民のプライドを持つ」という3つのキーワードがあり、岡山ではそのような意識をあまり持てていなかったという点です。

取り組みを考える前に、自分たち自身の構え方についてのコンセンサスをしっかりと持つ



ことが必要だったと猛省させられました。市民連合みえのフロントマンであった岡さ

んのキャラクターも大きいですが、人の心を動かすのはやはり人の心であり、おかやまっぽんはその意味でシステム構築に傾倒し過ぎ、人間と人間との信頼関係の構築という部

分がおろそかになってしまったように思います。

一方で、岡さんのように生活の多くを政治に集中できる環境の一般市民の方はなかなか居ないのが現状です。おかやまっぽんとして、市民連合みえのスタンスを学び、岡山ならではのそれを創っていかれたらと考えています。



▼▼▼ 今後の課題 ▼▼▼

- ・市民がチカラをつける⇒コミュニケーションを増やし、ネットワークを強くする。インターネットの苦手な方向けに機関紙を発行。市民の政治参加を進めるための長期的な学習の場(勉強会や塾など)を主催し、個人のスキルアップをはかる。
- ・市民による政策をつくる⇒おかやまっぽん政策会議を開催し、市民同士の話し合いの中で政策をつくり、政党および候補者に提案していく。
- ・岡山5選挙区に拠点となり得る個人またはグループと連携する⇒県内各地でおかやまっぽん懇談会を主催する。

▼▼▼ 今後の取り組み ▼▼▼

- 10月29日(土)9:30-11:30@岡山国際交流センター地下レセプションホール「おかやまっぽん、もうっぽん。来る衆院選にむけて」(市民団体懇談会)
- 11月5日(土)14:00-16:30@長泉寺「第1回おかやまっぽん塾」テーマ:保守主義とは何か?
- 11月11日(金)10:00-12:00@津山市議会「市民団体懇談会 in 津山(仮称)」
- 11月13日(日)14:00-16:00@倉敷物語館「市民団体懇談会 in 倉敷(仮称)」
- 12月4日(日)10:00-12:00@ターミナルスクエアビル 12階スクエアホール「名称未定」(衆院選に向けて、各野党を交えての市民の集い)
- 12月中 NEW ポスター完成予定

裁判所は憲法の番人として政府に歯止めを 安保法制違憲訴訟の意義



弁護士 吉岡 康祐

- 1 安保法制違憲訴訟おかやまの第一回口頭弁論期日が、11月24日午前10時に指定され、原告本人による意見陳述と、代理人弁護士による弁論を行うことが予定されている。第一次、二次を含め560名の原告で構成させるこの訴訟は、日本の将来にとって、極めて重要な裁判になると言っても過言ではない。すなわち、この裁判は、二つの意味で、大きな試金石となる裁判なのである。
- 2 まず、これまで憲法9条のもとで、恒久平和主義を貫いてきた日本が、「戦争が出来る普通の国」へと本当に転換してしまうのか、それとも踏みとどまるのか。それが試されている裁判である。

安保法は施行されてしまったので、それに則って自衛隊が集団的自衛権を行使する場面が、遅かれ早かれやってくる。しかし、この裁判で、集団的自衛権行使容認の閣議決定、それに基づく安保法制が違憲であると裁判所が判断すれば、仮にそれが最高裁ではなく下級審段階での判断だったとしても、政府はそれを全く無視することはできない。政府は、裁判所の判断を無視して強行することは躊躇するであろう。また、野党にとっては、安保法制廃案に向けての大きな後押しにもなる。いずれにしても、違憲判断が一つでも出れば、一定の歯止めになるはずである。我々原告及び弁護団は、まず、政府の行為に歯止めをかけるためにも、全力で戦うことを決意する。

- 3 もう一つは、立憲主義の回復を裁判所が果たせるか否か、裁判所（司法権）の真価が試される裁判である。

長年にわたって歴代政府は、現行憲法9条のもとでは集団的自衛権行使は許されないとしてきた。しかし、安倍内閣はその解釈をいとも簡単に変更した。これは明らかに、国民の憲法制定権力に由来する憲法改正権の侵害であり、立憲主義違反である。国会もそれを追認したので、内閣と同罪である。これに対して異を唱えられる国家権力は、司法権を司る裁判所しかない。内閣や国会の行為によって憲法秩序が破壊された場合に、他の二権とは独立した裁判所が、憲法秩序回復のため力を発揮すると言うのが三権分立の根幹である。もし仮に、裁判所が、これまで同様、統治行為論等を使って憲法判断を回避するようなことがあれば、もはや、日本には三権分立のシステムはないことを、国内外に示すことになってしまう。裁判所の本来の機能と力を果たせるか、それが試される裁判である。裁判所は憲法の番人である。内閣、国会の番犬にならないことを切に願いたい。

おかやまいっぽん なかま紹介



●伊東大輔（事務局長）

おかやまいっぽんは、立憲主義を取り戻すアクションを通して、市民参加によるボトムアップの政治を根付かせていきます。多様性があり、一人ひとりが一つずつ積み重ねて作る民主主義です。そのためには、みんなの力が必要です。



●榊原精（共同代表）

子供たちを安倍首相好みの国づくりの歯車にさせたくない。若者たちが自分を大切にし、他者を尊重し、未来に希望を持って生きていける社会にしたい。



●大坂圭子（共同代表）

政治や選挙が身近なものに思えるよう「わかりやすさ」を大切になりたいと思っています。ママ語でいきましょう！